

第 37 回 歴史リレー講座「奈良で生まれた修験道」 田中 利典氏（金峯山寺長膺）（H29.10.15）

古社寺を多く抱える奈良は神道と仏教が融合した結果、新たに修験道という信仰が誕生した特別な土地です。ここ王寺町の明神山も元々は葛城山系を中心とした修験が盛んな地域でした。天武、持統天皇の頃に使われ始めた「日本」という国名も神道も奈良で成立しました。それまでは神道という概念は存在せず、仏教の正式伝来（6 世紀半ば）をもって初めてその対照として認識されます。両者はお互いの精神に感化されひとつに融け合い（ハイブリッド）、修験道として発展を遂げました。修験道を理解することは実はとても難しいのですが、その根本道場である吉野の金峯山寺縁起からお話ししましょう。

修験道開祖の役行者は 634 年、葛城山（現在の金剛山）の麓に生まれ、『続日本紀』にもその名が記されています。葛城二十八宿修行では法華経 28 巻を埋経。第一の経塚は和歌山の友ヶ島であり最後は明神山、亀の瀬のあたりです。のちの大峯奥駈修行、金峯山山上（現代でも女人禁制）での蔵王権現感得（感得＝悟り）をもって金峯山寺と修験道の始まりとされます。権現とは仮に現れる化身のこと。元来は優しい表情の仏が恐ろしい形相の権現に姿を変えて人々の前に現れるのです。金峯山寺蔵王堂で最初に祀られた権現は今では日本中の名山に祀られています。また、役行者が権現を刻んだ山桜は御神木となり人々に愛されています。

金峯山寺は空海や西行などの高僧も修行に訪れた聖地です。平安時代には金峯山詣でのお陰で天皇家の内戚にこぎつけた藤原道長にあやかろうと貴族たちがこぞって詣でました。いわゆる御嶽詣の大流行です。南北朝時代に移ると金峯山寺は兵力と経済力を兼ね備えた政治拠点に様変わりしました。江戸時代には修験道自体が発展を遂げ、没後 1000 年の役行者に「神変大菩薩」という諡が与えられました。

修験道は神仏間に産まれた子供のような存在といえますが、明治 5 年には神仏分離の政策から修験道禁止令が出され全国の修験信仰は廃退、葛城二十八宿もほぼ壊滅しました。路頭に迷った当時の山伏は約 17 万人。同 7 年、金峯山寺は廃寺という憂き目に遭いながらも、同 19 年に天台宗の寺に復帰を果たします。そして廃寺 130 年後の平成 16 年に「紀伊山地の霊場と参詣道」の一つとして世界文化遺産に登録されました。最近では、失われた二十八宿再興の動きも見られます。

修験道信仰は 3 つの大きな柱で成り立っています。まず、山を道場とみなしひたすら祈り歩く修行。次に、座禅や滝行など身体を使う実践修行。そして、先に述べた通り神仏混淆の多神教的宗教であること。『日本書紀』の中で仏教は「蕃国の神」（隣国から来た神様）と記されています。日本人は昔からあまたの神も仏も分け隔てなく尊んできました。普通の家庭が仏壇のすぐそばに神様を祀っていることが良い例でしょう。

そして、神と仏が合わさった権現を日本中に広めたのが修験信仰です。昔の西洋人は山や森には悪魔が棲むと考えると近づきませんでした。誤解が解けたのはわずか 200 年前です。一方、古くから日本人は聖なる山へ畏怖心をもって分け入り、聖なるものに触れることを修験道から学んできました。修験道はときに大災害を引き起こす自然と寄り添いながら生きてきた日本人の根本を成す民俗宗教であり、山伏が理屈抜きで身体を張って実践する山岳宗教であり、神仏混淆の信仰観から生まれた宗教です。

これからの社会は単一の価値観で世界を一括りにするグローバル思想から脱却し、ローカルなものとうちに融合させたグローバル思想へと転換を図るべきでしょう。世界 3 大宗教に対して神道は日本独自のローカルな宗教。そして神仏習合の申し子である修験道はまさにグローバルかつハイブリッドな宗教といえます。

奈良は単に古刹名刹が多いだけの土地ではありません。神道が誕生した地であり仏教が伝来した地であり、さらにそれらが融合して生まれた修験道が発展した世界に誇るべき場所です。みなさまには本日の講座をきっかけにこの事実をお心に留めていただくようお願いします。

於 王寺町地域交流センター リーベルホール

講座「奈良で生まれた修験道」

金峯山寺長 臈 田中利典^{りてん}

○プロローグ

奈良という場

1) 修験道の根本道場・金峯山寺

2) 修験道の開創

開祖役行者 続日本紀に曰く

役行者ご生誕 葛城山の麓

葛城修行=葛城28宿 法華経の山

大峯修行=大峯奥駈修行 密教の山

金峯山上で蔵王権現感得=修験道の開創

権現とは神か仏か??

3) 金峯山寺と修験道の歩み

空海・聖宝・相応・西行など数多の修行者を集める一大宗教聖地
御嶽詣での流行

中世期 南北朝時代・吉野朝廷

江戸期 太閤秀吉の花見/輪王寺末へ/里山伏と登拝講

役行者に「神変大菩薩」諡号

*吉野山の桜は山桜=蔵王権現のご神木

蔵王信仰・役行者信仰の全国伝播

明治初期の神仏分離と修験道禁止

明治元年/神仏分離令 明治5年/修験道廃止令

明治7年/金峯山寺廃寺

*近代化の生け贄となった修験 神の死

修験道の復興

明治19年/金峯山寺、天台末の仏寺に復帰 昭和23年/天台宗から独立

平成16年/紀伊山地の霊場と参詣道世界遺産登録

4) 修験道とは何か?

①山の宗教、山伏の宗教…大自然が道場

②宗派を超えた実践宗教…実修実験・修行得験

③神仏混淆の多神教的宗教…日本人の祈り

新たに見直される現代修験道の意義

○エピローグ・・・